

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373101015		
法人名	社会福祉法人 洋香会		
事業所名	にしき園グループホーム さくら棟		
所在地	熊本県球磨郡錦町大字西70番地		
自己評価作成日	令和2年9月15日	評価結果市町村受理日	令和2年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和2年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広大な敷地の中に立地し周りは田園風景に囲まれ、果樹園、牛舎も隣在し自然に恵まれた環境である。利用者様は朝食後の散歩から一日のスタートを切り、園庭の草花や野菜の育ち具合を眺めながら、心地よいひと時を楽しませている。近隣の保育園や小学校との交流、毎月第4金曜日の虹いろカフェ、公民館での認知症講座への協力、地域の認知症声掛け見守り訓練、介護相談員の訪問等様々な触れ合いを大切にしながら取り組んでいる。家族様を招いての誕生会、季節毎の行事や行事食の提供、近隣地域の神社参りや花見のバスハイク等で四季を感じていただきながら様々な交流の場作りに努めている。約1年前より共用型デイサービスを開始し、更に交流の場や馴染み関係を支援している。コロナ禍の現在、一日も早い終息を願うばかりである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然治癒も期待できるほどの豊かな自然環境の中、コロナ禍の中に職員の創意工夫(室内で出来る事を中心とした活動)や、周辺環境を生かした日常が生活のメリハリや、できる事に視点を置いたケアはできる力を発揮させている。玄関の掃除や土いじり、野菜の育ち具合の確認等役割のある生活は生き生きとした生活に反映させている。コロナ禍の中で家族への発信源としてブログやホーム便り等による情報の発信は、訪問の困難な家族への安心感となっている。共用デイや、虹色カフェ(オレンジカフェ)を通じた認知症ケア啓発や保育園児・小学生との相互交流、地域を含めた防災訓練等地域の交流拠点としての役割を担う他、今年7月の豪雨には敷地内の空き施設を開放する等防災の拠点としての役割も期待されたホームである。地域に確固たる基盤が築かれたホームであり、認知症ケアの推進に益々寄与されることと大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	私たちは、地域とともに歩み「自然を愛し、地域を愛し、人を愛す」を理念として、目につく場所に掲示して全職員で共有し、意識を持って実践している。	「自然を愛し、地域を愛し、人を愛す」の理念を大前提に、基本方針及び目標として具現化し、ケアに直結させている。職員の持つスキル(小学生向け認知症講座等)やハード面(交流センターを開放した虹色カフェ)等精力的に地域と関わっており、地域の中での確固たる基盤が築かれ、入居者18名と共用デイ利用者及び職員が仲良く、大家族として温かいホームが形成されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の開催、虹いろカフェ、近隣の保育園や小学校との交流会、地域公民館での認知症についての講座協力、避難訓練、季節ごとの神社参り等、利用者様や事業所が地域との繋がりを継続出来るよう取り組んでいる。	コロナ禍になり、保育園児や小学生との相互交流は難しい状況であるが、地域住民との関わりが途切れない工夫している。地区での徘徊声掛け訓練や虹色カフェ(オレンジカフェ)を再開し、近隣住民も心待ちに参加されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターとして、又地域にやさしい人づくりネットワーク委員会のメンバーとして会議への参加、認知症見守り声掛け訓練への参加、地域公民館等での認知症サポーター養成講座への協力をを行い、認知症の方が安心して暮らせる地域を目指し取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は奇数月に開催し、利用者様代表、家族様代表、町区長、民生委員、地域住民、消防団長、町役場健康保険課長、包括支援センター職員の方々出席の下、日頃の利用者様の状況や行事、活動、運営について報告し、意見をいただきながら振り返りや情報共有、検討の場としている。	定例化した運営推進会議は、一堂に会することが難しいコロナ禍にあつては資料(2ヶ月間の行事報告や予定、2ヶ月間の活動報告、身体拘束廃止委員記録)等を配布し、後日各委員から意見等を収集しサービスに反映する体制としている。利用者の参加や、行政他、消防団長等充実したメンバー構成であり、夜間避難訓練への参加意欲等区長をはじめとして地域住民がホームに好意的であることが議事録より確認された。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、毎回町健康保険課長、包括の職員出席の下、情報交換や検討を行い、必要時は随時お互いに行き来しながら協力関係の構築に努めている。月に1度の介護相談員訪問時も協力頂いている。	運営推進会議には、行政や地域包括支援センターの参加の下、ホームの現状等を発信し、意見交換を行うとともに、地域の声掛け模擬訓練にホームも企画・参画する等相互協力関係にある。成年後見制度での社協との連携や、町の負担軽減制度等申請を代行し、行政に出向きながら状況を発信している。また、近隣4町村からの入居という特異性もあり、各行政と連携しながら入居者を支えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関先に身体拘束をしない宣誓文を掲示し全職員で理解し強く意識して取り組んでいる。身体拘束廃止委員会の毎月の会議にてテーマを決めて取り組み、勉強会で全職員で共有、検討し常に周知徹底するよう取り組んでいる。日中施錠は一切行わない。	身体拘束をしないホームとしての方針を明確にし、身体拘束廃止マニュアルの見直や、毎月テーマを設定して身体拘束廃止委員会を開催している。特に職員の“待ってください”等つい出してしまう言葉やスピーチロックが無いように注意喚起している。職員の気付き・観察力を生かすことでセンサーマット等も利用せず、リスク委員会の中でのヒヤリハット事例検証や外出傾向にある入居者を把握し、気づきを持ったケアに努めている。	自然豊かで、オープンな環境のホームであり、外出傾向の高い入居者支援として職員の勤務体制(一人になる時間帯等)による対応についての話し合いに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員で常に意識して取り組んでいる。利用者様の身体に血腫や打撲痕等を発見した場合は、直ちに管理者へ報告し、全職員で原因を考え、シミュレーション等の実施で検討している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を利用されている方がおられ、連携を取りながら本人様の支援に努めている。全職員で今後更に理解を深めていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時は、管理者が丁寧に説明し、利用者様や家族様の理解を得られるよう努めている。利用料金については、別表作成でより解り易く、又重度化された場合の事等も含めて不安に思われていることや疑問についてお話ししている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や行事、運営推進会議において出来るだけ要望や意見を伺う機会を設けるよう努めている。玄関先に皆様の声を書面で受け付ける取り組みをしている。	玄関先に“心のこえ”という用紙を設置し、相談に応じる体制としている。サービス担当者は会議や受診対応時等に家族に意向や要望等引き出したり、担当職員による電話等相互連絡を行っている。運営推進会議も問題提起の場として生かされ、第三者委員の存在を明確にしている。	家族には何でも言ってほしいと話し掛けておられるが、あまり要望等は無いようである。今後も、家族の忌憚の無い意見等をケアサービスに反映されるよう期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員出席での毎月の勉強会や朝夕のミーティング、人事考課の際の面接時等職員の要望や意見を聞く機会を設け、その都度検討している。	毎月の職員会議や朝・夕のミーティング時意見や提案を聞き取りしている。管理者は日々職員とのコミュニケーションを図り、個別面談により個別事案を聞き取りしている。また、各棟にリーダーを配置しており、職員からの意見や要望がリーダーを介して挙がることもあり、随時検討している。サービス向上委員会やリスク委員会等改善意欲の高いホームであり、法人目標及び個人目標の進捗状況も職員にフィードバックしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期ごとの人事考課において、職員の自己評価を基に面談し、公平に評価、助言し、法人目標、個人目標に向かってそれぞれに向上心を持ち職務につけるよう取り組んでいる。賞与への反映、昇給制度を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれに応じた事業所内外の研修参加を促し、各種資格取得を奨励し、各自のスキルアップの場を確保出来るよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会において、定期的に勉強会や研修を開催して参加することにより、情報や意見の交換を行い、互いにサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの段階で、本人様からの会話、声や表情を引出しながら、生活歴等の聞き取り、把握を行い、要望や疑問点を受け止め、ケアプランに反映させ、安心して利用して頂けるような関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に十分な施設の説明を行い、家族様の困りごとや要望を伺い、安心してご利用頂けるよう、又信頼して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様のその時の状態をを把握し、必要なことを見極め、適切なサービスが提供出来るよう多職種協働で対応し支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの生活を大切に考え、出来ることは続けて行事や活動、家事等日々の生活、共同生活の中で生き甲斐や楽しみを見出されるよう馴染み関係づくりに努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話、誕生会や行事への参加、可能な限り定期受診等をお願いし、本人様と家族様の関わりを継続されるよう支援している。定期的にメッセージカードや便りの送付、ブログ等で様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様や地域の方の面会、近隣小学生、保育園児との交流会、季節毎の神社参りや花見、紅葉狩りのバスハイク、ふるさと祭り見学、自宅へのふるさと訪問、冠婚葬祭時の外出、親族のお見舞い等、出来るだけ関係を継続されるよう支援している。	家族や地域住民の訪問、おくんち祭りや町のふるさと祭り見学、神社参拝、自宅訪問等馴染みの関係性が途切れないよう支援している。職員の支援による葬儀参列や、職歴を生かした役割(洗濯物たたみ)、編み物や裁縫を趣味とされていた方に毛糸を見ていただいたり、節分の恵方巻、牡丹餅やおはぎ作り等四季折々の慣習を継続している。家族との面会は再開されており、保育園児や小学生との交流等世代間交流への取り組みとともに、コロナ収束後にはこれまでの地域住民との交流等再開されることと大いに期待したい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事席やソファでの座位の場所等を工夫し、日々の活動や行事には全員で参加して頂き、それぞれに関わりを持ちながら、馴染み関係づくりが出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の入院や他施設への入所時は、必要な情報提供を行い、その後も相談や支援に協力する姿勢で、家族様からの相談等に応じている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各利用者様に担当介護士を任命し、より細かい本人様の希望や意向の把握に努め、勉強会で全職員でケア検討、又日々のミーティングで都度情報を共有、相談し合い支援している。利用者様には常に声掛けし、コミュニケーションづくりに努めている。	入居者の一日と職員の一日は違うと捉え、今できる事は今日することとし、入居者の発せられる一言にも耳を傾けるとともに、表情ではいつもとの違いを把握している。発語が少ない方でも選択肢を投げかけ、うなづきで判断したり、笑顔をバロメーターとし、入居者の代言人として担当職員が気が付いたことをケア検討会で話し合い、プランニングに反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントを基に、本人様との関わりの中で、観察力を持ち発見を加えながら、より深く本人様を理解出来るよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様の好みやペースを把握、理解する上で、出来るだけ声掛け、話題を提供し、会話を通して全職員が寄り添いながら関わりを持つよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のミーティング、ケア検討会、受診時の主治医との意見交換、定期的なサービス担当者会議において、現状を把握した上で本人様や家族様の要望、意向を取り入れ課題やニーズに応じた介護計画書を作成している。	サービス担当者会議により本人・家族の意向などを把握し、毎月の勉強会の中にケア検討会も組み入れ、入居者個々の課題を話し合い、変更点があるがプランに反映させている。3ヶ月毎のモニタリング、半年毎の見直しや、入院時等随時家族を含めた話し合い等重度化傾向に対する今後の生活を検討し家族の思いに対応している。担当職員の意見を生かし、入居者のできる事に注視した個別プランが作成されている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個別ケース記録に、出来るだけ本人様の言葉も記録し、職員間で共有し、ケア検討会やミーティングを通して実践やプランの見直し等に活かしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化や利用者様や家族様の要望や意向を受け入れて、急な専門医受診や緊急時の外出や外泊、今後の生活の場についての相談事等に応じている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の包括支援センターをはじめ、民生委員や介護相談員、地域住民、ボランティア、警察、消防、理美容院等の協力の下、利用者様が関わりを持ちながら安全で安心な生活を営まれるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、家族様の要望を受け入れ、入居前からの馴染みのかかりつけ医にて継続的な医療が受けられるよう、又状況次第で利用者様、家族様が希望される病院、医師による医療を受けられるよう支援している。	入居時にかかりつけ医を聞き取りし、ホームにお任せしたいとの希望には協力医療機関をかかりつけ医としている。基本的には家族に受診を依頼しているが、コロナ禍という観点から職員が受診に付き添う他、医療機関の送迎を受ける等適切な医療を支援している。また、日々バイタルチェックを行う等日々健康管理を徹底している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設の看護師をはじめ、かかりつけ医療機関の看護師等に相談し連携を取りながら利用者様の状態把握を行い、必要に応じて適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーにて情報提供を行いその後の経過を病院側や家族様と定期的に情報交換し、退院時は、入院中の情報を十分に把握し、出来るだけ早く施設での生活に順応されるようリハビリ等を含めて家族様に報告しながら支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の指針や医師や医療機関との連携等についての説明を行い利用者様や家族様の要望、意向を伺いながら支援に努めている。同法人の特養を含め今後の生活の場の説明や申し込みについての助言等をしている。	入居時に“重度化した場合の指針”をもとに説明し、質問に応じながらその時点での意向を確認している。入居者個々の状態により、急変時対応を含めた今後の意思を確認している。母体法人特養施設や医療機関への意向を選択されるケースが多いが、職員は入居者との長い関わりの中から、異常の早期発見に努め、ホームでの安定した生活支援に尽力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し、救急救命研修受講や勉強会への参加で実践力を身につけている。緊急連絡網に従って素早く連携が取れるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防避難訓練、災害避難訓練を実施し、消防署と連携を取り、地域の協力をえて合同の避難訓練実施に取り組んでいる。定期的な消火器設備点検を実施している。食料や水等の備蓄品を管理している。	火災や自然災害を想定した訓練を定期的に開催しちる。夜間訓練では、職員が2名体制で建物回りを確認し様々なシミュレーションによる対応策の検討や、毛布を使った移動を体験している。地域との合同訓練には、消防署の指示のもと、地元消防団や住民が参加し、消火栓を使った大掛かりな訓練が実現している。台風時には管理者も泊まり込んだり、備蓄の用意や日頃から埃等も気を付ける等高い意識を持って有事に備えている他、防火管理者の資格取得を推奨している。	ホームでは、今年7月の水害時には避難所として開放する(空き施設)、地域貢献に努めている。今後も地域一体となった災害訓練の開催や、地域の防災の拠点としての役割を担われることと大いに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者様を尊敬し、人生の大先輩としての言葉使いや接し方を心掛けている。特に入浴、排泄、更衣時はプライバシーの保護を意識したケアに努めている。	職員は個人目標として入居者への言葉使い(ため口や命令口調にならない等)を掲げる等親しき中にも節度をもって対応するよう心掛けている。居室での更衣にはドアを閉める事や風呂場の暖簾、トイレのカーテンの開閉等プライバシーに特に注意している。入居者の顔写真の掲示や、書類の一括管理等個人情報保護については家族の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との触れ合いの中で、それぞれの好みや希望を聞き取り、食べたい物や行きたい場所、その日の服装等、出来るだけおひとりずつの声を引き出せるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決して無理をせず、その方のペースにあわせて、食事においてもせかさず、出来るだけ自力で食べて頂けるようゆっくり見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様毎にブラシを用意して整髪、時には美容師にて散髪、中には自分で化粧をされたり、行事や外出の際は、好みの服装に着替えて頂いたり、身だしなみも楽しみのひとつとして支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時には縁の畑と一緒に野菜を収穫、下ごしらえをして、料理の盛り付けや後片付け等共同作業をしている。	各ユニットで作る料理は、地元商店での買い出しや菜園で育てる野菜を活用し、季節感ある料理を提供している。行事毎の手作りする恵方巻や牡丹餅等先人の知恵が活かされ、テーブルを囲んで里芋やダイコンの育ち具合が話題に挙がると更に賑やかな食事風景になるようである。食の楽しみは食する事ばかりにらず、野菜の生育を見る、話題に上る、共に料理する楽しみ、入居者の持つ力の発揮と様々な観点から食を楽しんでいるホームである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人栄養士作成の献立表を参考にしながら、旬の物を取り入れ、利用者様の健康状態や体調に応じてバランスの良い内容、形態に配慮し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、義歯の洗浄、うがいをして頂き、口腔内の清潔保持に努めている。義歯ブラシ、舌ブラシ、義歯洗浄剤を活用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様毎に排泄のパターンを把握し、出来るだけトイレでの自立を促し、その方によっては夜間のポータブルトイレの活用、パッドのサイズの使い分け等で不快感や不安感を減らし、清潔で快適に過ごされるよう努めている。	ホームではオムツはずしに力を入れており、日中は布パンツにパットを佩用したり、リハビリパンツで過ごしながらいれでの排泄を基本としている。個別の排泄量や時間帯によって排せつ用品を使いわけ、入居者の不快感を払拭し、家族の負担軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ運動や水分補給を促したり、食生活において野菜、きな粉牛乳やヨーグルト、食物繊維や発酵食品を取り入れて工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の状態に応じ、安全を確保して優しく声掛けし、本人様の気持ちを汲み取り、ペースに合わせ、ゆっくりと入られるよう努めている。洗身や拭き取り、更衣等出来ることをして頂き、菖蒲湯やゆず湯等季節感も取り入れている。	重度化が進むユニットもあるなかで、入浴が楽しみなものになるよう、職員は一人ひとりにゆっくりと関わり、会話を通して入居者の思いを引き出し機会としている。自ら衣類を選び、入浴の準備をされる方もおられる一方で、これまでの支援方法では難しくなった方へもシャワー浴等を工夫し、入浴拒否時には時間をずらしたり、声かけの工夫により清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝衣に着替えて頂き、ゆっくり快適に休まれるよう支援している。時には足浴をして頂き安眠、良眠に繋がるよう支援している。寝具の生活保持、居室の環境整備、空調管理に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師管理の下、全職員で利用者毎の服薬内容を把握し、薬情ファイルを作成し情報を共有している。服薬の際は日付や名前を声に出して何重にも確認し、確実に飲み込まれるまで見守りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれの好まれることを把握しながら、歌、塗り絵、貼り絵、裁縫、編み物、菜園活動、家事等残存機能を活かし、楽しみや張りのある生活を支援している。時にはゆっくりと景色を眺めるのが好きな方もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様とのお墓参り、行きつけの美容院への外出、我が家や地域へのふるさと訪問、季節毎の花見や神社参り、冠婚葬祭時の出席、外泊等、出来るだけ本人様のこれまでの生活の継続を大切に考え支援している。	母体法人の車を借用しバスハイクとして紅葉見学や神社参拝、ふるさと祭りやおくんち祭り(昨年)等に出かけている。コロナ禍により、外出が制限される中、職員が花を持ち寄り飾って楽しんだり、ベランダで弁当を広げ庭の桜を愛でる等創意工夫しながら季節を楽しんでいる。庭の土いじりを日課としたり、ミニ運動会では入居者の活躍の場を作り等出来る限りの支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金の管理は事務所で言うが、パンの移動販売時や地域のふるさと祭りでの買い物、神社参拝の賽銭等必要に応じて本人様に所持や支払いをして頂くこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日や贈り物が届いた時等は必ず、又他にも希望があればいつでも電話での家族様とのやり取りはして頂いている。年賀状や暑中見舞い等のお便りも書かれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や園庭に咲いた花等を飾ったり、壁面には皆様が四季折々の行事や活動に参加された時の写真を貼ったり、時には音楽を流して雰囲気作りに努めている。動線を確保し安全に、換気を心掛けて空調管理を行い過ごし易い空間作りに努めている。	ホーム内は庭で摘んだ季節の花が活けられ、手入れの届いた暮らしやすい環境である。台所と一体となったリビングではテーブルを囲んで野菜の下ごしらえ(こさん竹、トウモロコシ、玉ねぎの皮むき、豆のすじ取り等)をする入居者の姿が日常的に見られ、出来る力を発揮させている。普段の様子や外出時の表情を撮った写真の掲示等壁面の活用や、今年度は感染症対策を徹底し、1日4回の消毒等安全かつ衛生的な環境としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの種類も一人や二、三人掛けと色々なタイプを置き、カウンター席も活用しながら、又少し離れた談話室、外のベンチや椅子、休憩所等でゆっくり過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ本人様のこれまでの生活の中で使い慣れた物を持参して頂き、安心して心地よい毎日を送られるよう支援している。本人様や家族様で衣替えをして頂いたり、職員は布団干しや清掃、日々の衣類の整理等清潔や管理に努めている。	居室への持ち込みはそれぞれであるが、小物から家具まで持参した品を動線に合わせてレイアウトしている。仏壇に仏飯とお茶を供える等在宅時の生活沿線である方もあり、クロゼットが備わった居室は整理整頓されている。天気の良い日には布団を干す等安眠に繋がる工夫もされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には名前を表示し、ホールには時計やカレンダーを配置して、利用者様にわかって頂けるように、又居室のタンスには衣類の区別が出来るよう表示している。スムーズに移動されるようにトイレには目印をつけている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373101015		
法人名	社会福祉法人 洋香会		
事業所名	にしき園グループホーム うめ棟		
所在地	熊本県球磨郡錦町大字西70番地		
自己評価作成日	令和2年9月15日	評価結果市町村受理日	令和2年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和2年10月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広大な敷地の中に立地し周りは田園風景に囲まれ、果樹園、牛舎も隣に自然に恵まれた環境である。利用者様は朝食後の散歩から一日のスタートを切り、園庭の草花や野菜の育ち具合を眺めながら、心地よいひと時を楽しまれている。近隣の保育園や小学校との交流、毎月第4金曜日の虹いろカフェ、公民館での認知症講座への協力、地域の認知症声掛け見守り訓練、介護相談員の訪問等様々な触れ合いを大切にしながら取り組んでいる。家族様を招いての誕生会、季節毎の行事や行事食の提供、近隣地域の神社参りや花見のバスハイク等で四季を感じていただきながら様々な交流の場作りにも努めている。約1年前より共用型デイサービスを開始し、更に交流の場や馴染み関係を支援している。コロナ禍の現在、一日も早い終息を願うばかりである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	私たちは、地域とともに歩み「自然を愛し、地域を愛し、人を愛す」を理念として、目につく場所に掲示して全職員で共有し、意識を持って実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の開催、虹いろカフェ、近隣の保育園や小学校との交流会、地域公民館での認知症についての講座協力、避難訓練、季節ごとの神社参り等、利用者様や事業所が地域との繋がりを継続出来るよう取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターとして、又地域にやさしい人づくりネットワーク委員会のメンバーとして会議への参加、認知症見守り声掛け訓練への参加、地域公民館等での認知症サポーター養成講座への協力を行い、認知症の方が安心して暮らせる地域を目指し取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は奇数月に開催し、利用者様代表、家族様代表、町区長、民生委員、地域住民、消防団長、町役場健康保険課長、包括支援センター職員の方々出席の下、日頃の利用者様の状況や行事、活動、運営について報告し、意見ををいただきながら振り返りや情報共有、検討の場としている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、毎回町健康保険課長、包括の職員出席の下、情報交換や検討を行い、必要時は随時お互いに行き来しながら協力関係の構築に努めている。月に1度の介護相談員訪問時も協力頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関先に身体拘束をしない宣誓文を掲示し全職員で理解し強く意識して取り組んでいる。身体拘束廃止委員会の毎月の会議にてテーマを決めて取り組み、勉強会で全職員で共有、検討し常に周知徹底するよう取り組んでいる。日中施錠は一切行わない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員で常に意識して取り組んでいる。利用者様の身体に血腫や打撲痕等を発見した場合は、直ちに管理者へ報告し、全職員で原因を考え、シュミレーション等の実施で検討している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を利用されている方がおられ、連携を取りながら本人様の支援に努めている。全職員で今後更に理解を深めていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時は、管理者が丁寧に説明し、利用者様や家族様の理解を得られるよう努めている。利用料金については、別表作成でより解り易く、又重度化された場合の事等も含めて不安に思われていることや疑問についてお話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や行事、運営推進会議において出来るだけ要望や意見を伺う機会を設けるよう努めている。玄関先に皆様の声を書面で受け付ける取り組みをしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員出席での毎月の勉強会や朝夕のミーティング、人事考課の際の面接時等職員の要望や意見を聞く機会を設け、その都度検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期ごとの人事考課において、職員の自己評価を基に面談し、公平に評価、助言し、法人目標、個人目標に向かってそれぞれに向上心を持ち職務につけるよう取り組んでいる。賞与への反映、昇給制度を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれに応じた事業所内外の研修参加を促し、各種資格取得を奨励し、各自のスキルアップの場を確保出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会において、定期的に勉強会や研修を開催して参加することにより、情報や意見の交換を行い、互いにサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの段階で、本人様からの会話、声や表情を引出しながら、生活歴等の聞き取り、把握を行い、要望や疑問点を受け止め、ケアプランに反映させ、安心して利用して頂けるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に十分な施設の説明を行い、家族様の困りごとや要望を伺い、安心してご利用頂けるよう、又信頼して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様のその時の状態をを把握し、必要なことを見極め、適切なサービスが提供出来るよう多職種協働で対応し支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの生活を大切に考え、出来ることは続けて行事や活動、家事等日々の生活、共同生活の中で生き甲斐や楽しみを見出されるよう馴染み関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話、誕生会や行事への参加、可能な限り定期受診等をお願いし、本人様と家族様の関わりを継続されるよう支援している。定期的にメッセージカードや便りの送付、ブログ等で様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様や地域の方の面会、近隣小学生、保育園児との交流会、季節毎の神社参りや花見、紅葉狩りのバスハイク、ふるさと祭り見学、自宅へのふるさと訪問、冠婚葬祭時の外出、親族のお見舞い等、出来るだけ関係を継続されるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事席やソファでの座位の場所等を工夫し、日々の活動や行事には全員で参加して頂き、それぞれに関わりを持ちながら、馴染み関係づくりが出来るよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の入院や他施設への入所時は、必要な情報提供を行い、その後も相談や支援に協力する姿勢で、家族様からの相談等に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各利用者様に担当介護士を任命し、より細かい本人様の希望や意向の把握に努め、勉強会で全職員でケア検討、又日々のミーティングで都度情報を共有、相談し合い支援している。利用者様には常に声掛けし、コミュニケーションづくりに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントを基に、本人様との関わりの中で、観察力を持ち発見を加えながら、より深く本人様を理解出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様の好みやペースを把握、理解する上で、出来るだけ声掛け、話題を提供し、会話を通して全職員が寄り添いながら関わりを持つよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のミーティング、ケア検討会、受診時の主治医との意見交換、定期的なサービス担当者会議において、現状を把握した上で本人様や家族様の要望、意向を取り入れ課題やニーズに応じた介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個別ケース記録に、出来るだけ本人様の言葉も記録し、職員間で共有し、ケア検討会やミーティングを通して実践やプランの見直し等に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化や利用者様や家族様の要望や意向を受け入れて、急な専門医受診や緊急時の外出や外泊、今後の生活の場についての相談事等に応じている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の包括支援センターをはじめ、民生委員や介護相談員、地域住民、ボランティア、警察、消防、理美容院等の協力の下、利用者様が関わりを持ちながら安全で安心な生活を営まれるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、家族様の要望を受け入れ、入居前からの馴染みのかかりつけ医にて継続的な医療が受けられるよう、又状況次第で利用者様、家族様が希望される病院、医師による医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設の看護師をはじめ、かかりつけ医療機関の看護師等に相談し連携を取りながら利用者様の状態把握を行い、必要に応じて適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーにて情報提供を行いその後の経過を病院側や家族様と定期的に情報交換し、退院時は、入院中の情報を十分に把握し、出来るだけ早く施設での生活に順応されるようリハビリ等を含めて家族様に報告しながら支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の指針や医師や医療機関との連携等についての説明を行い利用者様や家族様の要望、意向を伺いながら支援に努めている。同法人の特養を含め今後の生活の場の説明や申し込みについての助言等をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し、救急救命研修受講や勉強会への参加で実践力を身につけている。緊急連絡網に従って素早く連携が取れるよう備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防避難訓練、災害避難訓練を実施し、消防署と連携を取り、地域の協力をえて合同の避難訓練実施に取り組んでいる。定期的な消火器設備点検を実施している。食料や水等の備蓄品を管理している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者様を尊敬し、人生の大先輩としての言葉使いや接し方を心掛けている。特に入浴、排泄、更衣時はプライバシーの保護を意識したケアに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との触れ合いの中で、それぞれの好みや希望を聞き取り、食べたい物や行きたい場所、その日の服装等、出来るだけおひとりずつの声を引き出せるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決して無理をせず、その方のペースにあわせて、食事においてもせかさず、出来るだけ自力で食べて頂けるようゆっくり見守っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様毎にブラシを用意して整髪、時には美容師にて散髪、中には自分で化粧をされたり、行事や外出の際は、好みの服装に着替えて頂いたり、身だしなみも楽しみのひとつとして支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時には縁の畑で一緒に野菜を収穫、下ごしらえをして、料理の盛り付けや後片付け等共同作業をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人栄養士作成の献立表を参考にしながら、旬の物を取り入れ、利用者様の健康状態や体調に応じてバランスの良い内容、形態に配慮し提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、義歯の洗浄、うがいをして頂き、口腔内の清潔保持に努めている。義歯ブラシ、舌ブラシ、義歯洗浄剤を活用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様毎に排泄のパターンを把握し、出来るだけトイレでの自立を促し、その方によっては夜間のポータブルトイレの活用、パッドのサイズの使い分け等で不快感や不安感を減らし、清潔で快適に過ごされるよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ運動や水分補給を促したり、食生活において野菜、きな粉牛乳やヨーグルト、食物繊維や発酵食品を取り入れて工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の状態に応じ、安全を確保して優しく声掛けし、本人様の気持ちを汲み取り、ペースに合わせて、ゆっくりと入れられるよう努めている。洗身や拭き取り、更衣等出来ることをして頂き、菖蒲湯やゆず湯等季節感も取り入れている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝衣に着替えて頂き、ゆっくり快適に休まれるよう支援している。時には足浴をして頂き安眠、良眠に繋がるよう支援している。寝具の生活保持、居室の環境整備、空調管理に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師管理の下、全職員で利用者毎の服薬内容を把握し、薬情ファイルを作成し情報を共有している。服薬の際は日付や名前を声に出して何重にも確認し、確実に飲み込まれるまで見守りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれの好まれることを把握しながら、歌、塗り絵、貼り絵、裁縫、編み物、菜園活動、家事等残存機能を活かし、楽しみや張りのある生活を支援している。時にはゆっくりと景色を眺めるのが好きな方もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様とのお墓参り、行きつけの美容院への外出、我が家や地域へのふるさと訪問、季節毎の花見や神社参り、冠婚葬祭時の出席、外泊等、出来るだけ本人様のこれまでの生活の継続を大切に考え支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金の管理は事務所で行うが、パンの移動販売時や地域のふるさと祭りでの買い物、神社参拝の賽銭等必要に応じて本人様に所持や支払いをして頂くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日や贈り物が届いた時等は必ず、又他にも希望があればいつでも電話での家族様とのやり取りはして頂いている。年賀状や暑中見舞い等のお便りも書かれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や園庭に咲いた花等を飾ったり、壁面には皆様が四季折々の行事や活動に参加された時の写真を貼ったり、時には音楽を流して雰囲気作りに努めている。動線を確保し安全に、換気を心掛けて空調管理を行い過ごし易い空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの種類の種類も一人や二、三人掛けと色々なタイプを置き、カウンター席も活用しながら、又少し離れた談話室、外のベンチや椅子、休憩所等でゆっくり過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ本人様のこれまでの生活の中で使い慣れた物を持参して頂き、安心して心地よい毎日を送られるよう支援している。本人様や家族様で衣替えをして頂いたり、職員は布団干しや清掃、日々の衣類の整理等清潔や管理に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には名前を表示し、ホールには時計やカレンダーを配置して、利用者様にわかって頂けるように、又居室のタンスには衣類の区別が出来るよう表示している。スムーズに移動されるようにトイレには目印をつけている。		